



SDGs&カーボンニュートラルに参画しよう

安全で快適に暮らせるまち

夏の風物詩(ふうぶつし) 打ち水



地球温暖化が問題になっているこのごろ、日本で古くからおこなわれてきた「打ち水」が改めて注目を集めています。

打ち水は家の前などに水をまき、お客さまを心地よく迎えるためのお清めやおもてなしの心を表すとともに、夏の暑さをやわらげて涼やかさを得るという日本の伝統的な風習です。地面に水をまくと、水が蒸発(じょうはつ)するときに地面の熱をうばい、温度が下がって涼しく感じます。実際の気温が下がらなくても、体を感じる温度は約1.5度下がるとされています。

打ち水を行うことで貢献(こうけん)しているSDGs(エスディーゼーズ)のゴール



①ゴール2/質の高い教育をみんなに

打ち水は、だれもが手軽にできるエコな暑さ対策です。打ち水の効果や水を大切に使うことなどの環境へやさしい取り組みを学ぶきっかけになります。



②ゴール6/安全な水とトイレを世界中に

打ち水では、できるだけお風呂の残り湯や雨水などを「再利用」することで水資源を大切にします。



④ゴール13/気候変動に具体的な対策を

打ち水をすることで、体を感じる温度を下げ、涼しさを得ることができるので、冷房の使用時間を短くすることができ、CO₂を出す量を減らすことにつながります。



打ち水をするときのポイント

ポイント1

時間帯は朝や夕方に

昼は、日差しが強くなり水がすぐに蒸発してしまうため、朝や夕方の日差しが弱い時間帯に水をまくことで、涼しさを長持ちさせることができます。特に夕暮れは気温も下がり始めているので涼しさを感じやすくおすすめ!

ポイント2

日なたよりも日かげにまく

打ち水の効果を長持ちさせるためには日なたよりも日かげに水をまくようにしましょう。日かげがない庭やベランダ、玄関まわりは、すだれやグリーンカーテンをつけてから打ち水をすると、より効果が高くなります。

ポイント3

水は二次利用がきほん

打ち水に使うのはお風呂の残り湯や子ども用プールの残り水、雨水などを使いましょう。水のむだづかいに気をつけながら、安全な水を使いましょう。

気をつけてほしいこと

車や人が多いところで打ち水をおこなうのは危ないので気をつけましょう。人にかけたり、すべりやすくなるようなところには水をまかないように注意して行ってください。

わたしたちにできること

打ち水は、だれもが簡単にできるエコな活動です。また、限りある水を大切に使うことができる方法のひとつでもあります。これからの暑い夏を涼しくし、地球にやさしい活動をやってみましょう。